



新潟ボイセンベリー生産組合
〒953-0015
新潟県新潟市西蒲区松野尾 4894
電話 080-5525-3734



健康果実で 故郷に活気を

山賀章裕さん(73) 寺泊教会

美しい田園風景が広がる新潟市西蒲区（じかみ）の一角に、山賀さんのボイセンベリー畑はある。

ボイセンベリーの原産地は米国。一口サイズのキイチゴで、ほどよい甘さと酸味が特徴だ。ポリフェノールなどの栄養素を多く含む「幻の果実」とされ、日本でも「健康果実」として注目されている。

地元の工業高校を卒業後、東京の半導体を扱う会社で働き、定年後に帰郷した山賀さんが就農したのは六十七歳のとき。平成二十八年のことだ。地元企業に再就職していたが、住民の高齢化で耕作放棄地が増えていく状況を目にし、基幹産業の農業で故郷を活性化したいと意欲が湧いたという。また、かつて立正佼成会杉並教会で岡田守代（もりよ）支部長（当時）からアドバイスされた「一隅を照らす人間にならなさい」という言葉も一念発起（いちねんぱつぎ）につながった。

「地域の活性化を人任せにするのではなく、できることを自分がやってみようと思ったのです」

就農を決意してから二年間は、育てる作物の選定と耕作放棄地の開墾（かいけん）に費やした。農業未経験で、年齢を考えると、できることも限られる。山賀さんは手入れが簡単で、健康促進や美容効果で関心が高まりはじめたボイセンベリーに活路を見だし、三百五十株から栽培をスタート。令和元年にはじめて収穫でき、いまは千五百株まで栽培量を増やしている。

そのチャレンジ精神は商品の加工・販売にも及ぶ。独自のアイデアを生かしてジュレや甘酒などを商品化し、道の駅やインターネットで販売してきた。

「お客さまから『体の調子が良くなった』などの声を聞くことが、何よりの喜び」と目を細める山賀さん。自身が設立した「新潟ボイセンベリー生産組合」には現在、二人の若手農家が加入し、販路拡大など新たな展開を模索中だ。

「若い世代が生活できる環境をつくるまでが、私の責任」。山賀さんのボイセンベリーには、故郷の明るい未来を願う強い思いが詰まっている。



* 立正佼成会経営者サンガネットワーク「六花の会」
<https://rikkanokai.jp/community/>
9月1日から上記HPでもこの記事がご覧になれます。